

病と健康をめぐる

中野重行 ニンゲン学

医療の現場で近年、インフォームドコンセントという言葉をよく耳にするようになった。十分に知らされた上で（インフォームド）同意する（コンセント）という意味で、患者自身が意思決定します。生活習慣病をはじめ病気の治療の主役は患者自身です。インフォームドコンセントは、患者が治療チームの

がインフォームドコンセントです。自分の病気と治療についてよく理解した上で、意欲を持って治療に参加すると、一般に効果は高まります。「説明」と「理解」の間に十分なコミュニケーションがあつてはじめて、治療チームとしてしっかり機能するようになります。

文化の違いはあつても患者と医療者の間に良好なコミュニケーションがあれば、理解と共感が生まれて、治療についての意思決定ができるようになります。説明と理解の間でコミュニケーションを深めることにより信頼関係ができ、一緒に治療に取り組む良い関係がつくられます。

インフォームドコンセント

治療の主役は患者自身

トは、患者が治療チームの

トについて、日本医師会は

文化の違いが患者と医療

限りある命を大切にす

「説明と同意」と訳していますが、これは医師がすべきことを示しています。患者にとつては「理解と選択」になります。医療者側の「説明と同意」と患者側の「理解と選択」を合わせて考えると本質が分かりやすくなります。

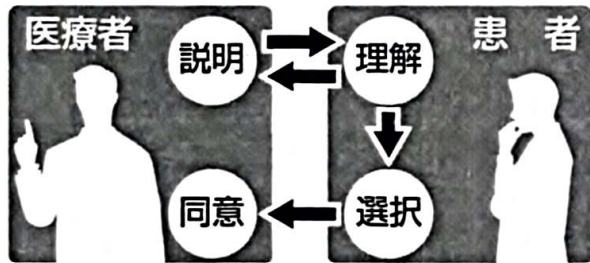
ために、治療を全面的に医療機関に依存してしまうのではなく、自分の健康の維持や病気の治療に主体的に取り組むことが大切です。

医療者は患者が分かりやすいように十分な説明をし、患者は内容を十分に理解した上で、患者自身の意思で決定（選択）をするの

文化の違う国や文化によって異なります。米国や欧州など西洋文化では、子供のときから自分の意思をはっきり表明するように育てられます。一方で日本は意思決定は集団の中で行われることが多く、自分の意思表示を求められる機会も比較的少ない文化です。

生活習慣に関連した病気が増える中で、医療者の努力だけで良い医療を実現することは不可能です。医療者と患者が一緒に協力して実現していくものなのです。

医療における インフォームドコンセント



（大分大学名誉教授・元同大病院長）